

## 日台青年交流事業 2013年1月27日～2月3日

交流協会では、日本と台湾との青年交流を促進するため、日本の人文・社会科学分野を学んでいる台湾の大学生を夏季と冬季に日本へ招聘しております。今年度冬季は、平成25年1月27日から2月3日の8日間招聘致しました。ここに、今回招聘した20名のうち、男女各2名の訪日報告書をご紹介します。

### 2012年日本研究支援ウィンターキャンプ報告書

国立台湾師範大学

東アジア学科3年生 李佳洲



交流協会が私に十日間にもわたるウィンターキャンプへの参加資格を与えてくれた事に感謝しています。以前に何度も日本へは行った経験がありますが、この十日間は過去の経験と比べても最も充実したものでしたし、私の日本に対する理解が最も増進した十日間でもありました。厳粛な交流や授業、リラックスした体験や見学、どちらもこの十日間で常に新しい知識を得、体で悟る事が出来ました。

台湾での二日間の授業を含め、新たな知識がまるでわき水のように湧いてきました。

各大学で行われた大学生との交流会は私が最も期待した活動です。大学一年生の時から私は学部内で積極的に日本の各種交流や討論会に参加してきました。しかしずっと先方が日本から来ていて、受動的な感覚をもっており、そのため私は日本へ赴いて行う交流のチャンスをずっと待っていたのです。そして今回ウィンターキャンプの活動で私によりやくその貴重なチャンスが与えられたのです。最初は日台学生会議との懇親会でした。

それは正式な交流会ではありませんでしたが、とても楽しいものでした。日本側学生は台湾に関して一定の知識があり、また指定された議題があるわけでもありません。私達のメンバーにいる謝子淳は組織の幹部を務めており、日本語ができないメンバーも楽しく会話ができました。その後私達は日本の学生とともにカラオケに行きました。しかし意外なことに、最終的に中国語の歌が日本の歌よりも歌った数が多かったのです。

平成国際大学の学生交流はウィンターキャンプの二つ目の交流会です。そして私はここにとても期待していました。交流会で私は日本の大学生の就職活動に関して更に深い知識を得ました。ここで私は台湾と日本の職場の違いを学んだだけでなく、九月からの交換留学の際授業の選択を改めて考えさせられました。私が意外に感じたことは日本の職場で新入社員が入社したがる企業、それと台湾と日本で給料に対する要求の類似点です。日本の就職希望のランキングから若者が会社選択に際して興味を重視しているのだと感じました。これはディズニーランドへの就職希望が男女別に見てもランキング三位であることから明らかです。そして日本人がUターン就職する原因である、故郷への想いも感じる事が出来ました。これは台湾では感じられないことです。

三カ所目は北陸大学での交流です。自分の得意な議題へは振り分けられませんでした。中国・韓国の留学生及び日本の学生と同時に交流できた事で多くの経験を得る事が出来ました。文化とい

う議題で、私達は日本と台湾の違いを討論しただけでなく、中国や韓国の経験も比較し、東アジア全体の各文化に関して討論が出来ました。

そして東京大学の川島真准教授による日本近代史及び日台関係の授業は私の印象が最も深く、得るものが一番大きい活動でした。私はこの活動の応募の際、交流協会に研究計画書を提出しましたが、それは1972年以降の日中台関係に関するものでした。ですから、この方面に関しては一定の資料を探し、研究したことがありました。しかし川島准教授の日台関係の歴史観によって私は新たな啓発を受けました。特に日本統治時代の各種評価の原因分析とその解釈、及び戦後の日台関係などは私がこれまで聞いた事がなかった観点でした。断交後の台日関係に関しては川島准教授の話された内容は私の知識範囲内のことでしたが、私がより深く知るため質問をすると、川島准教授は日本の左翼と中国の共鳴及び72体制の方向性に関して話され、私の研究の上で疎かにしていた部分を発見できたと同時に、これらの歴史に於いて一新された視点を与えてくれました。

金沢での三日間に関して、私はそれだけを特に切り離して報告しようと思います。なぜなら飛行機に乗ってから常に驚きと感動でいっぱいだったからです。私は父親の影響から飛行機に乗ることが好きです。ですから、金沢の往復という二度の短い移動すら私の記憶に於いて相当な分量を占めています。金沢に赴いた当日は空が晴れ渡っていて、空高くからでも地上の一切を見渡す事が出来ました。離陸後機上に置いてある雑誌の地図を取り、私の足下で動いている世界を感じながら、窓の外を見てその地形と手に持っている地図とを見比べ、今どの山脈、どの平原を越えたか等を想像していました。ずっと日本の新幹線に乗ってみたいと思っていましたが、金沢への新幹線は二年後

ようやく開通するそうです。しかしこのような体験は小さな頃からよく飛行機に乗っていた私でも今まで味わった事はありませんでした。

飛行機がまだ降りてもいない時から既に私は純白の世界に魅了されていました。空港を出る頃には私の心は既に我慢の限界で、耐えきれず道路の傍にあった雪を踏みしめました。まるでかき氷のようなシャリシャリという美味しそうな音がしたのです！その後スキー場で装備を整え、自由時間で思う存分雪を楽しみました。以前に中国のハルビンで雪を見た事はありませんでしたが、その時は数日間雪が積もっていたので、既に氷の様に固くなっていて、このように手で簡単に掬い雪玉を作れるような雪ではありませんでした。スキー体験は初めてでしたが、山の中腹から転ぶ事も無く爽快な速度で滑り降りてくることができ、この台湾人の心を満足させてくれました。近くにいた子供のように障害物の間をすり抜けてみたかったのですが、やはりそれは雪国で生まれ育ったからこそできることなのです。初日の夜の宿泊は湯涌温泉街の温泉旅館で、「至高のもてなし」という言葉でしか形容できないものでした。

金沢での数日間で私が一番印象に残った事は金沢市の人々の金沢と言う土地に対する郷土愛とその広報活動です。バスに乗ると、寺畑さんが私達に台湾人のために書かれた、金沢を紹介した繁体字の資料を渡してくれました。旅館に入ると湯涌温泉街には金沢と湯涌温泉をテーマにしたアニメ「花咲くいろは」のポスターが貼られていました。翌日にひがし茶屋街を歩いていた時、または三日目に花園公民館と八田與一の故居を訪れた時にも金沢市と金沢市民の自分の住む土地に対する愛情と金沢の魅力をもっと知って欲しいとする気持ちを深く感じる事が出来、私はとても感動しました。

金沢での滞在で、提言せずにはいられないのはPongyiでの一晩です。Pongyiは素朴なゲストハウスで、私が最初に想像していたものとはまるで

違いました。個別の部屋はありませんでしたが、とても心地いい空間が作られていました。ホテルでの宿泊で感じる拘束感は全く感じません。その夜は一緒に温かい鍋を堪能しました。その時にオーナーである MASAKI さんの不思議な人生と Pongyi の成功への奇跡を聞き、そこに宿泊できた事で、私は Pongyi という金沢の一ゲストハウスに対してだけでなく、人生に対して新たな知識を得る事が出来ました。翌日そこを離れる時には誰もが日本で過ごした最も不思議な一晩だったと感じていました。

最終日の行程はとても忙しくはありましたが、その精彩さは失われていませんでした。金沢 21 世紀美術館の展示は今でも私の頭の中に浮かんできます。兼六園の参観時には天気がよくありませんでした。雪がちょうど溶けきったところで、兼六園の 100% の魅力を感じる事は出来ませんでした。それにより私は家族と再度訪れ、兼六園の真なる美しい姿を見てみたいと思いました。

金沢から東京へ戻る際には金沢への往路とスカイツリーから見た夜景の経験があったのですが、帰途も相も変わらず、数万メートルの高さから東京の夜景をみようとししました。しかし天気が良くなく、ようやく夜景が見えた時にはどこだかわかりませんでした。しかし、とても奇妙な景色に出会う事が出来ました。道路が一直線に海へと伸び、その中央にはまるで大きなクルーズ船のような建物があったのです。家に戻りそれを調べてみると、それは東京湾を横切る「海ほたるパーキングエリア」だということがわかりました。この旅行の最後に小さな喜びと驚きをもたらしてくれました。

今回私は初めての日本訪問ではありませんでしたが、この十日間のウィンターキャンプでは各方面に於いて楽しく、充実していました。もともと私の計画では今回のウィンターキャンプは九月の

交換留学の前哨戦と位置づけていました。しかしその効果は遥かに私の予想を超えていました。今回のウィンターキャンプで得た体験、友達、新たな知識が私に与えた影響はきっと将来的にも続くものとなり、引いては私の人生にも大きな影響を与えるでしょう。最後に林賢参団長、交流協会の頼さん、土田さん、そして末石さんに感謝します。私達の冬休みは他人とは全く異なるものになりました。

## 東京金沢での見聞

国立政治大学  
日本語文学科 3 年生 陳亭竹



今回私は二度目の日本訪問でした。しかし多くの「初めて」の感動がありました。初めて東京の寒く清らかな空気と整然とした町並みを感じました。初めて日本の大学に行き、現地の大学生と交流を行い、頭をフル回転させました。初めて雪の上で転がり、スキーのスリルを味わいました。初めて和服を着て、古い町並みを散策しました。多くの初めての体験がこの旅行を多彩にしてくれ、忘れ難い思い出となりました。交流協会の豊富な行程の準備に感謝します。私達の日本での生活部分、活動、そして出発前の集中講義など心配りある準備のおかげで、私達は多くの日本の知識と収穫を得ました。

事前授業は日本の経済、文化、政治や国防にまで及び、私が最も印象深かったのは、張銘今教授の「日本経済と台日経済関係」でした。授業中、教授は 1973 年の第一次石油危機後、日本は重工業からエネルギーの節約技術の開発に発展の中心を移し、それにより「知識集約産業」が発展した

のだとおっしゃいました。これにより続いて発生した第二次石油危機では日本はその波及を免れ、全世界が石油危機により景気の低迷を迎えたのに対し、日本は知識集約型産業によって経済的損害を抑えたのです。日本は早くから危機に対する先見の明があり、また正確な政策を打ち出せる知恵があることにとても感服しました。このような経済の活躍が恐らく日本が第二次世界大戦の衝撃後、急速に世界第二の経済大国にのし上がった原因の一つではないでしょうか。

2011年に発生した東日本大地震によって日本には甚大な被害と莫大な損失がもたらされました。そしてそれは数期連続でのGDPのマイナス成長を引き起こし、日本景気の悪化、経済の衰退に至りました。たとえそうであっても、今回Panasonic Centerのeco ideas HOUSEを参観すると日本の先進的技術やその概念には驚嘆させられました。近年、高度科学技術産業が次第に成熟し、そこから高い利潤を得られる時代は既に過去のものとなりました。重化学工業が石油危機に面して改善を余儀なくされたように、目下の高度科学技術産業も刺激が必要なのです。このとき環境保護の概念を推進している太陽エネルギーがその転機となったのです。近年、二酸化炭素排出量減少のために太陽エネルギーの開発、ハイブリッド車の研究が続けられており、「エネルギー節約製品」が今後の主軸となることは間違いありません。Panasonic Centerのeco ideas HOUSEを参観した時に、人に優しい感应式ライト、「二酸化炭素排出量0」の設計には驚かされ言葉がありませんでした。このような斬新な技術を見学して、グリーンエネルギーに関する技術開発分野の未来は日本がアジアを牽引するのだと感じました。

Panasonic Centerでは科学技術の成果に感嘆したと同時に、大勢の走り回って遊んでいる子供

たちがいたことに驚かされました。台湾の科学博物館では多くが学校の先生か先生が連れて集団参観させている子供たちです。Panasonic Centerで見かけた子供たちは大部分が家族が引き連れていました。科学技術を体感させ、数学や理科の知識を理解させていたのです。ここから、日本の親は教育に対してとても熱心なことが見て取れます。Panasonic Centerは日本到着初日の訪問でしたが、人に優しい科学技術や日本経済への希望、国家の未来を担う主人公たちへの重視がわかりました。それにより私は今後の素晴らしい日程に期待し始めたのです。

二日目、私達は国会図書館、浅草寺、そして最近とても人気のあるスポット「スカイツリー」を見学しました。浅草寺とスカイツリーはとても有名な観光地で、一方は伝統、もう一方は斬新、どちらもとても満喫しました。特にスカイツリーではたった50秒で634mの高さにある展望台に到着するエレベーターの技術があります。同時にエレベーター内に設置されたLEDライトのアニメーションは乗客がエレベーターに乗っている際に時間を潰してくれるという配慮があり、科学技術によって人に優しい設計になっている点はスカイツリーが私達に与える未来的なイメージと符合しています。私にとってそれは暗闇に光る白いクリスマスツリーのようで、その下に広がる東京の夜景は最も美しいクリスマスプレゼントです。しかし、美景も、伝統もどちらも良かったのですが、その日私を最も驚かせたのは国会図書館の見学でした。

私はこれまで地下八階の建物なんて見たことがありませんでした。地下の八階にある中庭から「上」をみると「地面」が見えますが、私は映画の中に登場するような秘密裏の製薬会社で人道に外れる機密を研究しているかのような錯覚を感じました。日本の国会図書館は「収蔵」のために建て

られた図書館で、「貸出し」のためではありません。それにより、一般人が利用できるスペースに大型の書棚は見当たりません。しかし私達は埃避けの靴カバーを履き、識別証明書を首から掛け、解説してくれるスタッフとともに本が隠されている本拠地へと入っていったのです。他の図書館とは比べ物にならないほどの収蔵量が私の目の前に現れました。第二次世界大戦後日本が発行した全ての雑誌、書籍などが集められ、1200万冊近くの書籍資料が全て一分の狂いも無く整頓されていました。保存の難しい新聞や漫画等の資料もデジタル化や方式を換えて保存されています。日本人の物事に対する態度は真面目で、何をするにも細かく行くと褒める人がいます。また、日本人は妥協を許さず、振る舞いがきちんとしている、と言う人もいます。日本人がどのように書籍を収蔵しているのか、その態度や方法を直に目の当たりにしたら、一体他のどの国が日本と同じ様にできるだろうか、と疑いたくなるほどでした。解説してくれたスタッフは、日本はこれら出版物を国家の大切な情報遺産として考えており、そのために慎重にそれらを収蔵しているのですよ、と話してくれました。その言葉を聞いて、私はとても感動しました。日本人の行動はこんなにも繊細且つ完璧で、その原因は彼らの諦めない精神と態度に他なりません！

日本人の真面目な民族性を見られた以外に、この数日間で私は彼らが融合させた新しい文化を、それと同時に本来の文化を守る能力を見ることができました。江戸東京博物館で私達は精緻な模型を通して江戸時代の人々の生活を理解できました。話題となっている篤姫が乗った籠や東京部分に展示してあったニコラス教会や朝日新聞社を見た他、日本の以前の生活を体験することができました。金沢で私達は日本の三大名園の一つの兼六園を参観し、日本庭園の美を鑑賞しました。また

兼六園からほど近い金沢 21 世紀美術館にも訪れました。興味深いプールの芸術を体験しました。この旅行で私は東京であっても金沢であっても「現代」と「伝統」が併存していることに気づきました。例えば自動車が飛ぶ様に走っている大きな道路の傍で人力車が走っているようなことです。例え生活の周辺でこのような現象が起きているとは限らなくても、博物館からは日本人の伝統文化の重視とそこから新たに生まれる勇気と創意工夫が見て取れます。

七泊八日の日本旅行で、交流協会が豊富な活動を手配して頂いたこと感謝します。それにより私達は多くの場所を見学でき、その中から日本の文化と精神を学ぶことが出来、更には交流、スキー、和服体験という貴重な経験を行うことができました。スキー、和服はとても面白かったのですが、私が最も大切にしたい経験はやはり直接日本人と交流できたことです。台湾で多くの日本人留学生と接することはありますが、日本に来て日本の大学生と会話をしたのは初めてで、とても新鮮な感覚でした。討論の結論は完璧なものだったとは限りませんでした。お互いの意見や考え方を話すことで、私達はお互いの文化や社会現象をより理解することができました。そして更に一歩進み、友達になり、お互いの連絡先を交換したのです。これはとても素晴らしいことです。

今回の活動に参加でき、各地の大学から来た友人、日本人と知り合えたこと、また日本の生活や文化を体験できたことはとても嬉しかったです。また林先生、頼さん、末石さん、土田さんの随行に感謝します。そしてこの活動の心配りある日程手配に感謝します。それにより私は表面的な見学ではなく、目の前にある物事に対してその後ろに隠された意味まで深く考え、そこから多くの刺激を受けることが出来ました。日本が時代の先を



行っている科学技術や、資料の収集、その管理に対する真面目な態度、そして新旧が融合した文化の創造方法等を今回の旅で見聞できました。既に懐かしく感じていますが、私はこれらのことを台湾の友人に紹介し、また一緒にこれらの長所を学んで行こうと思います。

## 日本文化体験の旅

国立成功大学医学部4年 楊博翔



この8日間に及ぶ「日本研究支援ウインター

キャンプ」は私にとってこれ以上ないほど多くの収穫が得られた貴重な旅行でした。出発前の2日間の授業は経済、政治、軍事及び文化等の方面からマクロな視点で日本を見る事ができました。また、日程2日目に川島先生が歴史的な角度から日台関係について話されましたが、歴史と政治の社会に対する意義を改めて考えさせられました。歴史とは史料の閲読によって情報を得るものではなく、違った角度から一つの歴史的事象を推察して、理にかなった解釈を得る事が重要なのです。川島先生は授業の中で、私達が以前社会の教科書で習った歴史的事象の一部を説明し、更に当時の様々な状況の情報を加えると、私達はこれまで当然だと考えていた歴史に新たな解釈を得る事ができました。そして国と国との政治関係においては、「利益」を用いて解釈すると、以前は理解できなかった多くの歴史がとても単純なものに変わりました。

文化方面において、私は日本人がとても丁寧で、細心の注意を払い、礼儀正しい民族であり、時間を守り、製品の品質に厳しい要求をする民族であることを知っていました。パナソニックセンターでの近未来感ある製品や科学技術、それらによる節約への要求、今回の旅行で訪れた各施設や建築物等、今回の旅行を通し、私は肌で上述した日本人の特性を感じる事ができました。日本人は室内の空間や商品を生産・開発する際、人への配慮や様々な可能性を考慮しているのだと感じました。私が最も驚かされたのはトイレを置いて他にはありません。大部分のトイレにはフックが付いていて、コートを掛けられるようになっていましたし、空港のトイレ設計は空間が特に広く、荷物が置きやすくなっています。これらのことはとても小さく、たいしたことがないように見えますが、私達が見過ごす部分でも、日本人は注意を払い、生活の利便性を大きく高めているのです。その他、大部分の店には日英対照の説明があり、旅行者がた

とえ日本語ができなくても理解できるようにしています。サービス態度の方面では、最初に宿泊した京急 EX イン、温泉旅館、学生寮、Pongyi のゲストハウス等々、すれ違う時には必ずスタッフの方から挨拶されます。それは冷たいマニュアル的なものではありません。これが、私が特別だと感じた点です。しかし今回の旅行では全ての文化体験が心地よかったわけではありません。東京の町並みを往来している人々こそが私の慣れない点でした。慣れなかったのは歩く速さです。よく街を歩いている私ですらあの時間と競争をしているような圧力に影響されました。少しでも注意を怠ると疾走している人たちとぶつかってしまうのではないかと感じるほどです。これは恐らく日本人が時間と時間厳守に対する要求なのだと思います。しかし台南で育った私にはあの感覚に慣れることはできず、とても緊張しました。

学生交流は私にとってとても特別な経験でした。なぜなら、私の日本語はそんなに上手くありません。多くの場合で英語か団員の通訳に頼っていました。しかし例えそうであっても、彼らとの討論はとても活発に行えました。なぜなら、彼らは私が日本語があまりできないことを知っていて、簡単な日本語で私と会話をしてくれたからです。日台学生会議との懇親会、平成国際大学での学生交流、北陸大学での学生交流、全ての場所で私は彼らの温かさや人の良さを感じました。今回の交流で私は一種カルチャーショックを受けまし

た。しかしそれは台湾からのものでした。多くの団員は日本語がとても流暢です。ですから、日本語があまり話せない私は交流時でもどうすればいいかわからないことがありました。時にはとてもバツが悪く感じましたが、これにより私自身の日本語学習に対する要求を更に高めようと考えました。このような刺激を受けた事で、私は更に日本語の勉強を頑張ります！今回の交流経験を大切にします。多くの台湾及び日本の友人と知り合えたと同時に、これは民間外交の成功なのです！

金沢の4日間は私が最も好きな日程でした。なぜなら台南と同様にゆっくりとした歩調が感じられたからです。緊張で息もできないような感覚は全くありませんでした。道路を含め町並み全体が同じような色調で統一され、木造建築に松の木が合わさり、微かに雪が積もり、自然の美しさが渾然一体となっています。しかし、風景の他、金沢が最も特別だと感じた点は文化の保存です。金沢には多くの伝統文化があります。金箔、能、手工芸、温泉等々です。同様に台湾にも多くの独特の文化がありますが、このような精緻な文化が永続的に保護するには若い人材を投入し、勉強させる



ことが必要不可欠で、それにより継続的に保存をするチャンスが生まれます。同時にこのような精緻な文化を現代と融合させることで、ビジネスチャンスが生まれますし、観光客が積極的に体験しようと考えます。しかし、商業化しすぎると古い町並みの美しさは無くなってしまいます。金沢という街は商業と文化の間で巧妙にバランスを保っているのです。この点を私達はもっと勉強しなくてはなりません。どのように一都市の文化と歴史をセールスするのか、をです。旧跡に関しては、観光客は一度見ると二回目を見たいとは思いません。しかしもしその文化がより深く観察するに値するのであれば、人々はもう一度訪問したいと感じます。

また、八田與一記念館の見学は以前社会の教科書で習った歴史と烏山頭ダム見学の記憶を呼び起こしました。日本人は自分の故郷の偉人を重視し、小学校の授業にも取り入れ、活発的な教育方法でその歴史を学ばせています。また台湾の嘉南小学校と定期的に交流をしています。このような外交と教育を結びつける有意義な交流こそが八田與一を記念する最良の方法だと感じました！

今回の旅行は私にとって本当に収穫満載の旅でした。異なる学校から参加している台湾人団員と友好を結べた他、多くの日本と中国の友人とも知り合えました。また、スキーの基本的技術を習得できました。最も重要なことは日本文化をより深く理解できた事です。同時に台湾の更なる進歩が望める部分に気づくことができ、台湾の今ある文化を大切にしようと感じました。一つの国や一つの街の文化を理解しようとするれば、ただ風景や名所の写真を撮っているだけでは決して体感することはできません。また、慌ただしいビジネス的なツアー日程では静かにこれら文化の諸処まで考えを及ぼす事はできません。先ほど今回の旅行は私にとって収穫満載だと言いましたが、まだまだ多

くの日本文化において私の理解が届いていないのだと思います。今後私の日本語能力を向上させ、日本に再訪し、今回体験できなかった日本文化とその中に含まれている意義を感じてみたいと思います。

最後に、現代日本研究センターが私にウィンターキャンプへの参加機会を与えてくれた事に感謝します。また、末石さんのガイドや土田さん、頼さん、そして林賢参先生の今回のウィンターキャンプにおけるご苦勞に感謝します。そのおかげでこのウィンターキャンプは内容が豊富で、また順調でした！

## 学習と感動

国立台湾大学  
経済学部3年生 謝子淳



今回この活動への応募は私に取っては二度目でした。私にこの機会を与えてくれた交流協会に感謝します。この旅は各方面に於いて私に大きな利益を与えてくれました。

政治大学での二日間の授業：

私達は先に台湾で二日間の講義を受けました。この二日間で私は日本に対する認識を増進させただけでなく、この旅行は観光や交流、教育的な意味を持つことはもちろん、私自身がつぶさに観察を行う態度で臨まなければならないとはっきり意識させられました。そうすることにより、日本文化と台湾文化の違いを発見し、日本に対して無意識のうちに抱いてステレオタイプの印象を探し出せるのです。

私が経済学部の学生であることから、日本の経

済に関することは多少理解しています。しかし林賢参先生が台日関係について話された時に大きく視野が広がりました。今まで接してきたものは教科書やニュースの情報であり、それらは既に過分に読み解かれた情報であり、先生が話されたのは本当に発生した事実だったからです。更にその真実に解説を加えて下さった事で、私の以前の考え方や立場は確固たる事実根拠の上になりたっているものではないことを理解しました。しかし私自身の願いとして、この部分は台湾教育において必ず検討及び改善をすべきです。このような態度だと台湾と日本の関係を正しく理解する事はできません。

#### 交流活動：

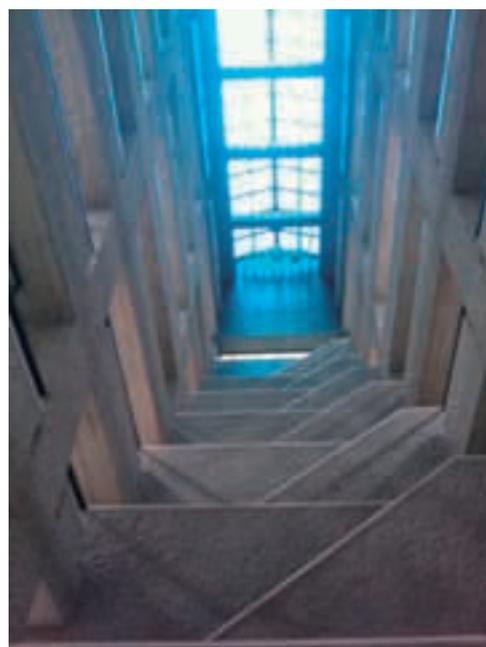
今回手配されていた交流活動の一つ目は日台学生会議との交流でした。私自身そのサークルに属していますので、半年ぶりに友人達に会えてとても嬉しかったです。最初の交流会として台湾が好きな日台学生会議との交流は最良の選択だったと思います。皆最初は手探り状態でしたが、最後には一緒にカラオケに行きました。それこそが心を開いた証明だと言えます！その後平成国際大学の学生と交流しました。台湾に対する理解は深くありませんでしたが、台湾を理解しようと一生懸命で、私達も台湾と日本の違いを探し出そうと努力しました。最後には全員の前で発表を行いました。時間が短かったことによって、討論を深く掘り下げる事は出来ず、また発表内容も充実したものではありませんでしたが、本当に重要な事は討論の過程や交流という経験です。またコミュニケーションの方法を改めて学ぶ事が出来ました。北陸大学での交流では更に私の視野を広げられました。初めて中国人と日本人と同時に交流し、三か国の習慣や考え方の違いを発見できたことはとても興味深いことでした。台湾人は中国人や日本人に似ている点もあり、それらは植民統治の影

響なのかもしれません！

金沢の年長者サークルとの交流は更に得難い貴重な体験でした。普段私達は外国の年長者と接する事は難しく、また接する勇気を持っていません。なぜなら年長者は一国の文化の精粹であり、私達は多くの事を学べますが、同時に私達自身の文化を容易に受け入れてくれるとは限らないからです。しかし今回出会った全てのおじいさんおばあさんはとても温かく、彼らが知っていることを私達に教えてくれました。また葛飾北斎の真筆をも持って来て見せてくれたのです！私達はもちろんこれまで見た事はありませんでしたが、その時参加していた他の日本人も見つからなかったようで、持って来てくれたおじいさんはあまり人に自分が収蔵している事を知られたくないと話してくれましたが、今回私達にはご好意で紹介をしてくれたのです。近距離でこのような収蔵品を目にできるなんて思いもよりませんでした。

#### 参観：

今回の詳細な日程表を手にして、一部の参観は学校での課外授業のように、つまらない知識を得



図書館地下室から地上へ繋がる窓

る行程だと感じていました。しかし実際に訪れてみて私が間違っていたことに気づきました。人生で初めて図書館が面白いと感じました。内部設計は行き届いており、利用者は十分に快適さを感じられ、本の閲覧システムも先進的で、書籍の保護は徹底して行われており、どの点に於いても心配りを感じる事が出来、見習い、学習すべき価値があると感じました。江戸東京博物館はただの展示館ではなく、展示スペース自体がとても素晴らしい設計になっていました。橋の両側には違った時代の東京があり、一目で時代の変遷を見て取ることができます。台湾の博物館とは異なり、体験できる多くの道具が置いてあり、身を以て以前の人々の生活を体験する事ができました。ただ解説を読むような表面的な参観よりもずっと心に深く残りました。

金沢：

実を言うと、金沢は私の頭の中ではただの日本の地名であり、どのような場所であるか全く理解していませんでした。しかし小松空港を出ると、果てのない銀世界が私の前に広がっていました。バスに乗って出発しても、目に映るのは依然として一片の雪景色であり、それに昔の風情が残った建築や自然の風景が相俟って見惚れてしまいました。目の前にある一つ一つの景色を全て記録したくなるほどです。湯涌温泉の玉泉湖はまるで異世界にいるかのような美しさで、ただ移動している時に見える風景なのですが、とても感動的でした。

景色以外に、金沢では金沢自身の広報活動にとっても驚かされました。金沢市役所はわざわざ寺畑さんを派遣して、ほぼ全日程随行させてくれ、私達に金沢について紹介してくれました。他に八田與一記念館やゲストハウス等金沢で出会った全ての人達から私達を心から歓迎してくれていることを感じ取ることができました。また、心の底から



ひがし茶屋街での写真

金沢を愛し、金沢を私達に紹介したいという想いが伝わってきました。それは彼らの温かさであり、そこに商業的な意味合いは全くありません。政府と民間が協力して作り上げることこそが観光客に一生の思い出を作らせる秘訣だと感じました。

台湾の義務教育を受けていれば、八田與一という名前を知らない人はきっといません。台湾に最も貢献した日本人の一人です。しかし私達の知識は花園小学校の小学生たちに及ばないかもしれません。日本は旧跡を保護し、後代に残すことに長けていることは周知の通りです。これまで五度日本に来た事がある私が八田與一の旧宅を参観した際、やはり日本人の旧跡保護の力に感嘆せざるをえませんでした。私が驚かされたのは小学校六年生が授業で八田與一の功績を調べ、それらを整理していたことです。日本人は子供たちに自分たちの地方から輩出された偉人に関して勉強させているのです。その方法は、彼がどんな人物なのかを教えるわけではなく、彼ら自身に資料を調べさせ、自分でそれを整理させているのです。これを見て私が教育を受けてきた15年間で私は本当に重要な能力を養えているのだろうかと思わずにはいませんでした。多

くの人が台湾と日本の教育は同じだといいますが、実際は完全にそうだとは言いきれません。日本がノーベル賞を受賞するような人材を輩出する理由がよくわかりました。台湾人は常に国外で研究を行わないとそれが達成できないのです。

総括：

この旅行全てに於いて、私は多くの驚きと反省を感じました。私の予想を遥かに越える中で、交

流協会が手配した日程というのは、ちょっと見ただけではわからないことも細かく観察して行くと小さなことでもその後ろに隠れている異なった考えの存在に気づかされる、というものでした。今回の活動に参加できた事はとても光栄に感じます。この一週間の時間で学んだことは必ず今後利用する場面がありますし、将来は台日関係にその力を尽くしたいと思います。